

3. 教職員に対する研究会、研修会等の開催

3-1 大学教育・情報戦略大会

本大会は、大学の教育・研究、管理運営の基盤環境としてのITの戦略的活用について共通理解を深めることを目的として継続開催しているが、今年度より、教育の改善を大学挙げて推進できるようにするため、教職員が一体となった戦略的なIT活用の取り組みを重視することになり、「大学情報化全国大会」から「大学教育・情報戦略大会」に改組した。また、本大会の企画及び運営・準備のため、運営を専門とする事業実施機関として「情報化全国大会運営委員会」を設置していたが、「教育・情報戦略大会運営委員会」（委員長：向殿政男、明治大学）に改組し対応した。

(1) 開催方針

18年度は、次のような方針のもとで開催プログラムを決定した。

- ① IT活用ありきではなく、その背景にある教育、人材育成について教員、職員に求められる能力の再開発について認識を改めることが先決であると判断し、初日は教育の質保証、ファカルティ・ディベロップメント、スタッフ・ディベロップメントへの取り組みの重要性を取り上げた。
- ② 講演、紹介中心のプログラムではなく、本大会でなければ議論できないような話題として、報道機関における知的財産の教育利用の問題を報道関係者を交えて全体討議できるように設定し、大学が抱えている問題を報道関係者に提起することにした。
- ③ 教育の情報化に欠かせない大学としての課題として、個人情報をはじめとする教員・職員の情報管理への対応について理解を深めるため、学内情報の管理とセキュリティ対策、教育支援への取り組みと学内体制、個人認証の技術動向と導入事例、学生サービスのためのICカード導入などの話題を初日と3日目に設定した。

(2) 開催結果

以上の方針をもとに、次ページの通り開催要項及び日程を決定し、9月5日、6日、7日の3日間に亘り、東京市ヶ谷のアルカディア市ヶ谷（私学会館）を会場に開催した。参加大学は168大学、23短大、賛助会員は16社で、3

日間の参加者数は2日目発表者や賛助会員を含めて525名となり、昨年度とほぼ同じ結果となった。なお、大会の概要は巻末の資料編【資料8】を参照されたい。

(3) 次年度への準備

大会後、運営委員会では参加者からのアンケートを踏まえて、平成19年度の開催方針について検討を行った。日程及び会場は、9月4日から6日の3日間、アルカディア市ヶ谷（私学会館）に決定した。

プログラムは、1日目は18年度に引き続き、ファカルティ・ディベロップメントの先駆的な導入事例、大学としての支援体制の他に、情報人材に対する今後の大学教育の在り方、著作権に関する報道機関など社会からの支援・連携の話題、2日目は従来通りの公募による教育・支援環境の事例発表、3日目は教職員を対象とした話題とした内容として、学生の能力を高めるための具体的な教育・学習方法の事例紹介、情報倫理や情報管理への対策、サイバー犯罪の報告など、検討を進めている。なお、展示会への参加者を増やすため、2日目の発表件数を減らして休憩時間をできるだけ多く設けること、懇親会はメニューを軽食程度にして参加費の軽減を図ることとした。また、例年通り講演や事例発表のVTR、レジュメのオンデマンド配信や開催結果のホームページ掲載を実施し、大会に参加できない大学関係者にも周知できるよう、迅速に対応することとした。



